

研究・調査報告書

報告書番号	担当
25	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Effect of screening on oral cancer mortality in Kerala, India: a cluster-randomised controlled trial. インド・ケララにおける口腔がん死亡に対するスクリーニングの効果：クラスターランダム化比較試験	
執筆者 Sankaranarayanan R, Ramadas K, Thomas G, Muwonge R, Thara S, Mathew B, Rajan B; Trivandrum	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Lancet. 2005;365:1927-33.	
キーワード 口腔がん、スクリーニング、クラスターランダム化比較試験	
要旨 背景： 口腔がんは発展途上国では高頻度であり、喫煙およびアルコールによって増加する。目視による検査の口腔がん死亡に対する効果を評価するため、インドでクラスターランダム化比較試験を実施した。 方法： インド・ケララにおける13集落が研究に選ばれた。7集落に対しては1996-2004年の間に、3年ごと訓練された保健従事者による口腔内検査を実施し(計3回)、6集落をその対照群とした。健康で35歳以上の人を対象者とした。スクリーニングで陽性の人については、医師による精密検査、生検、治療が実施された。結果指標は生存、致命率と口腔がん死亡率である。口腔がん死亡の群間比較は生存時間解析で実施された。 結果： 口腔がんは介入群で発生205人、死亡77人、対照群で発生158人、死亡87人であった。全体の死亡率比は0.79(95%信頼区間:0.51-1.22)であり、喫煙かアルコールを使用した人々の口腔がん死亡率比はそうでない人々と比較した場合、男性で0.57(0.35-0.93)、女性で0.78(0.43-1.42)であった。 解釈： 口腔に対する目視によるスクリーニングは高リスク集団の死亡を下げうる。	